2019 年度　関西学院大学総合政策学部研究会

学生地域貢献等活動助成事業

秋田県仙北市西木町地域の
グリーン・ツーリズム運営持続のための提案

報告書

関西学院大学総合政策学部　研究演習Ⅰ・Ⅱ

秋田県仙北市西木町地域のグリーン・ツーリズム運営持続のための提案
報告書

目次

実施内容	牲川　波都季	p.3
はじめに	牲川　波都季	p.7
星雪館		p.9
報告 1	朝倉　麻央	p.10
報告 2	梅崎　亮	p.11
報告 3	塩見　陽奈	p.12
報告 4	髙田　理代	p.13
報告 5	俣木　友朗	p.14
門脇砂絵美邸		p.15
報告 1	上村　みく	p.16
報告 2	太田　有里乃	p.17
報告 3	楫屋　雄大	p.18
報告 4	川口　いおり	p.19
報告 5	西岡　果歩	p.20
報告 6	李　春海	p.21
泰山堂		p.22
報告＆おわりに	牲川　波都季	p.23

実施内容　　牲川　波都季（せがわ　はづき）

1　事業名　　秋田県仙北市西木町地域のグリーン・ツーリズム運営持続のための提案

2　期間　　2019 年 9 月 9 日～9 月 12 日

3　チーム名　　関西学院大学総合政策学部　研究演習Ⅰ・Ⅱ

4　場所・参加者

里の灯

牲川　波都季（せがわ　はづき，代表教員）

星雪館

朝倉　麻央（あさくら　まお）

梅崎　亮（うめざき　りょう）

塩見　陽奈（しおみ　ひな）

髙田　理代（たかだ　りよ）

津田　健太朗（つだ　けんたろう）

俣木　友朗（またき　ともろう）

門脇砂絵美邸

上村　みく（うえむら　みく）

太田　有里乃（おおた　ゆりの）

楫屋　雄大（かじや　ゆうだい）

川口　いおり（かわぐち　いおり）

西岡　果歩（にしおか　かほ）

李　春海（り　しゅんかい）

泰山堂

胡子　奈々（えびす　なな）

柏木　乃愛（かしわぎ　のあ）

北川　樹（きたがわ　みき）

佐野　花奈江（さの　かなえ）

5　趣旨

秋田県仙北市のグリーン・ツーリズム運営農家は，収益を目的としてグリーン・ツーリズムを運営しているわけではなく，異質な他者との交流ができる楽しい機会のひとつとして捉えている。この意味では，県外から当地を訪れ農作業体験・宿泊すること自体が一つの地域貢献と言える。

ただし今回は，グリーン・ツーリズムを実際に体験するとともに，農家の受け入れ方略を観察し，その魅力を明らかにしたうえで改善策の提案をめざす。秋田県仙北市のグリーン・ツーリズムの特色・魅力を広報し，推進支援に貢献したい。

6　主な活動内容

次ページ

日程	時間	スケジュール	活動内容
9 日	15:00	JR 角館駅前 仙北市観光情報センター「角館駅前蔵」集合	注意事項・スケジュール・フィールドワークの内容の確認
	15:30	各農家に　移動	星雪館：朝倉，梅崎，塩見，髙田，津田，俣木 門脇砂絵美邸：上村，太田，楫屋，川口，西岡，李 泰山堂：柏木乃愛，佐野花奈江，北川樹，胡子奈々 里の灯：牲川
		各農家で　農業体験・宿泊	学生：体験内容を記録（写真とメモ） ※農家の方々の，受け入れ時の対応方法， コミュニケーションの仕方を観察する。 ※自分の研究テーマも意識しつつ， 農業体験受入事業の特色・改善点を捉える。 牲川：各農家を回り，受入状況のフィールド調査
10 日		各農家で　農業体験・宿泊	学生：引き続き，体験内容を記録（写真とメモ） 牲川：各農家を回り，活動体験のフィールド調査
11 日		各農家で　朝食→かたくり館へ移動	
	10:30−15:00	かたくり館で　農業体験報告会準備 昼食	仙北市西木町での農業体験事業の 概要・特色・改善点・感想をポスター化 ※手書き・写真つきのポスターで 各農家での活動内容をまとめる。
	15:30−17:00	泰山堂で　農業体験報告会	全員でポスター内容を発表 ※農家のみなさんからフィードバックを得る。
	17:30	泰山堂で　意見交換交流会	農家のみなさんとともに
	20:30	各農家に　帰宅　入浴，宿泊	
12 日	10:00	各農家で　朝食→チェックアウト	
	10:30	「角館駅前蔵」集合	各自，体験を振り返り報告
	11:00	解散	

はじめに　　牲川　波都季（せがわ　はづき）

1　秋田県仙北市西木町のグリーン・ツーリズム運営農家

秋田県仙北市は，秋田県の南北で言えば中央，東西ではもっとも東に位置している。仙北市は田沢湖町・角館町・西木町という三つの地区からなるが，特に西木町は農業が主要産業となっている地域である。この西木町では 1980 年頃から，国内都市部在住の子どもを中心に農業体験希望者を受け入れてきた。日本政府によってグリーン・ツーリズム（以下，「GT」）という用語が使われ始めたのは 1992 年のことで（井上，2011，p.3），農業や農家宿泊体験を内容とする一種の観光の形態を指す。西木町はそうした観光スタイルが流行する以前から，受け入れを行ってきたという歴史をもつ。

2　留学生のための農家民泊プログラム

この西木町において，2009 年より，私は外国人留学生を対象とした農家民泊プログラムを始めた。当初は私自身の発案ではなく，上司にあたる教員から留学生に秋田の地場産業の農業を体験をさせたいという要望があり，筆者が企画を担当することになったものである。実施地は，県内の GT を統括する団体などに尋ねた結果，経験豊富な西木町に決定した。

ただし西木町は，国内の小中学生，高校生団体の受け入れ経験は豊富だったものの，外国人団体を受け入れた経験はもっていなかった。筆者企画の農家民泊プログラムは，1 泊 2 日の農家民泊体験と，日帰りの収穫感謝祭とを組み合わせたもので，秋田県内の 4 から 5 校の高等教育機関から，留学生，日本人学生，引率の教職員が集まってグループを作り，初対面者同士で寝食をともにするというものであった。グループ内に通訳の役割が果たせる人物を入れるなど工夫はするものの，日本語学習経験のごく短い留学生もおり，意思疎通に問題が生じることも予想された。

しかし実施後のアンケートや，引率者としてプログラムに参加してきた筆者の観察から，このプログラムが GT 運営農家も含め，参加者全員にとり忘れがたく非常に心地のよい経験になっているということが確信できた[1]。

農家の中で，海外生活経験や高度な外国語教育経験をもつものは限られている。にもかかわらず，なぜ西木町のグリーン・ツーリズム農家は，国内外の見知らぬ他者の受け入れに成功してきたのだろうか。

---

[1] 日程や予算，アンケート調査の結果等，本農家民泊プログラム（2009 年度から 2013 年度まで）については，牲川（2014）が詳述している。

3　本事業の目的

関西地域の大学の学生にとって，東北地方は東日本大震災の記憶が強い場所である。現在の私のゼミ生は，震災が起こった当時，まだ小中学生であり，ボランティアで訪れた者はいない。また秋田県は，鉄路での移動となれば，東北地方の中でも訪問しにくい場所であり，関西からは航空便で行くよりほかない。ゼミのフィールドワークといった機会がなければ，一生訪れないかもしれない地域である。

また本ゼミでは，フィールドワークの前に当地のグリーン・ツーリズムの意義について簡単な説明はするものの，それ以外の事前学習は私の論文を読んでおく程度にとどめている。まったくの未知の地域・他者と会い，そこで農家がどのように受け入れ，関係性を築いていくのか，そこでどのような暮らしが営まれているのかを，まずは体験してもらいたいと考えているためである。

実施内容の趣旨でも書いたように，地域外からの訪問があること自体が，当地にとっては意義として受け入れられており，一種の地域貢献である。本事業は，フィールドワークの結果を活かした改善策の提案を目的の一つとしているが，仙北市のグリーン・ツーリズムは，国の事業指定歴や各賞の受賞歴があるなど，一般には優れた成功事例と捉えられている。それでも実際の現地に行き農業体験と農家との語らいを通じて，グリーン・ツーリズムだけでなく農業にも問題が起こっていることが見出される。

事業終わりの発表会や本報告書を通じ，他者の目から見つけたものを農家のみなさんに伝えることで地域貢献としたい。

文献

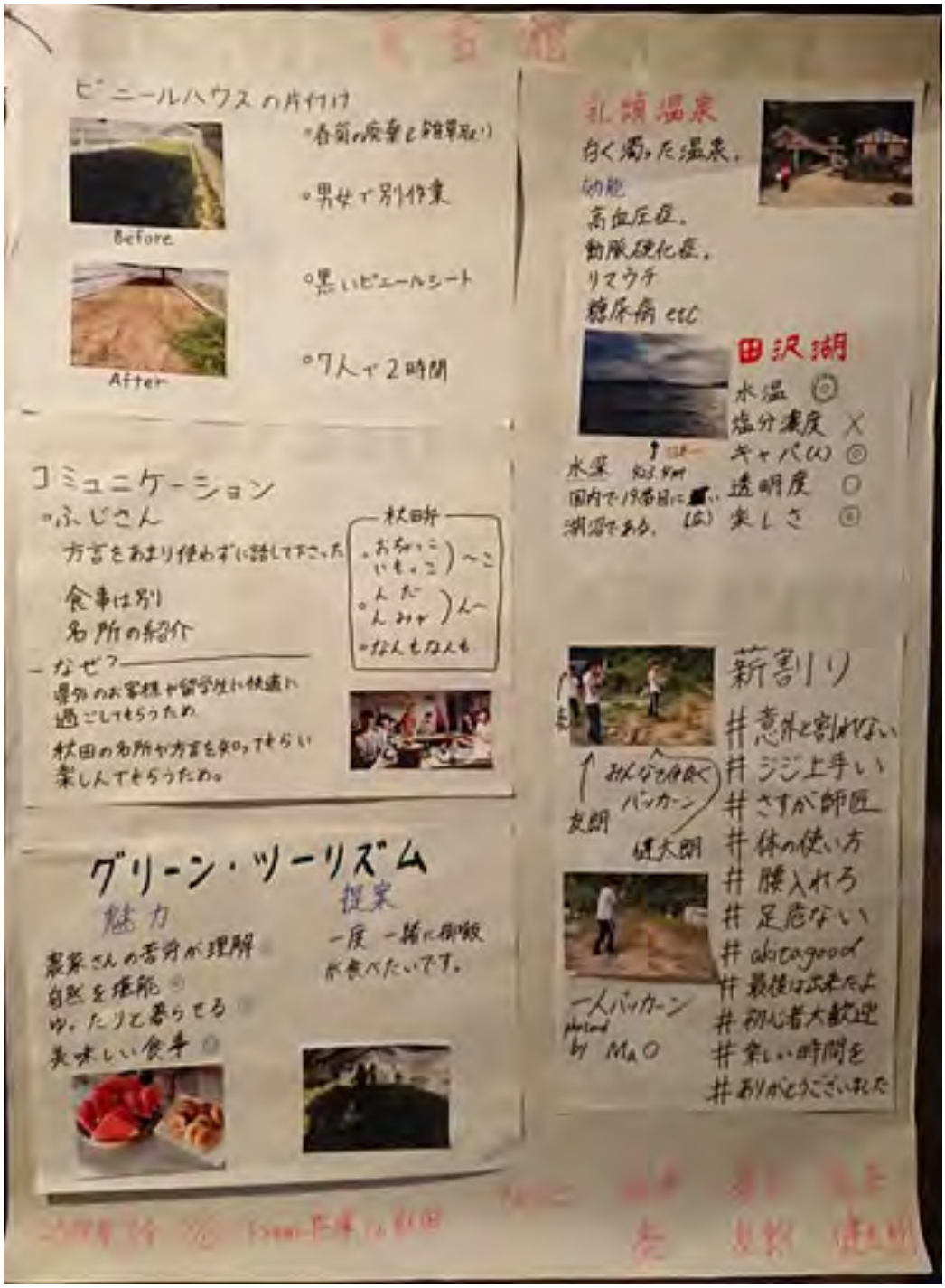
井上和衛（2011）『グリーン・ツーリズム―軌跡と課題』筑波書房.

牲川波都季（2014）「留学生農家民泊活動報告：農家民泊 5 年間――秋田県仙北市西木町にて」『秋田大学国際交流センター紀要』3，53-82.

※「はじめに」の一部は，牲川波都季（2018）「グリーン・ツーリズム運営農家 A 夫妻の他者認識――伝え合いの意志が生まれるところ」（『言語文化教育研究』16，96-114）の一部を加筆・修正したものです。

※本活動の実施については，「2019 年度関西学院大学総合政策学部研究会・学生地域貢献等活動助成事業」の助成を得た。

星雪館


ビニールハウスの片付け
Before
After
・春菊の収穫と雑草取り
・男女で別作業
・黒いビニールシート
・7人×2時間
コミュニケーション
・ふじさん
方言をあまり使わずに話してくださった
食事は別
名所の紹介
なぜ?
秋田弁
・なんもなんも
グリーン・ツーリズム
魅力
農家さんの苦労が理解
自然を堪能
ゆったりと暮らせる
美味しい食事
提案
一度一緒に郷土料理が食べたいです。
乳頭温泉
白く濁った温泉。
効能
高血圧症。
動脈硬化症。
リマウチ
糖尿病 etc
田沢湖
水温
塩分濃度
キャパ(人)
透明度
楽しさ
薪割り
#意外と割れない
#ジジ上手い
#さすが師匠
#体の使い方
#腰入れろ
#足危ない
#ohtagood
#最後は正味だよ
#初心者大歓迎
#楽しい時間を
#ありがとうございました
友朗
健太朗
一人バッカーン
photed by Ma○

報告１　朝倉　麻央

2019 年 9 月 9 日から 12 日の秋田合宿に参加した。私含め 6 人は、秋田県仙北市にある星雪館で門脇富士美さんにお世話になった。星雪館はお世話になった富士美さんの家とは別で、門脇さんの家の隣にロッジのような建物があり、そこに私たちは泊まった。ロッジはおばあちゃんの家に帰ってきた時のような雰囲気でワクワクした。1 日目の星雪館に着いた後は自由時間でゲームをしたり、それぞれが自由な時間を過ごした。2 日目は、午前中に春菊の植え替えの工程のひとつである春菊を抜く作業を手伝わせていただき、その後に薪割りの体験をさせて頂いた。春菊は葉に赤い斑点ができていると販売することが出来ず、もう一度植え替えるために全て抜いた。富士美さんのお父さんが薪を割っているのを見て私たちも出来るだろうと思っていたが、思っていた以上に力の入れ方などが難しく、薪割りが初めての私達はなかなか上手に割れなかった。午後からは乳頭温泉と、田沢湖へ連れて行って下さり、観光することができた。乳頭温泉では、何種類かの温泉があり、入って回ることができた。本格的な温泉に入るのは初めてで、すごく気持ちよく、また、お仕事の用事で秋田に来ていたお客さんと話すことが出来て楽しかった。その後に訪れた田沢湖は、水の色が青色で、琵琶湖とは比べ物にならないくらい綺麗だった。3 日目は 1 日ゼミの活動を行い、最終日の解散する前に、田んぼアートを見に連れて行ってくださった。田んぼアートは、絵本の「すてきな三にんぐみ」をテーマにしたもので、稲の種類を変えて絵を作っているものだった。

私は、グリーンツーリズムというのがどういうものなのかよくわかっていなかったのだが、中学生の時に一度民泊をしたことがあり、だいたい同じような感じだろうと思っていた。中学生の時の民泊では現地の人のお宅にお邪魔させてもらい、晩ご飯の手伝いをしたり、一緒に食事をしたりするようなものだったが、富士美さんのところのグリーンツーリズムは、富士美さんがご飯を用意してくださって、食事は別だった。星雪館には今まで泊まった人の写真や今回私たちが作ったポスターのようなものが飾ってあったが、そういったものの話も聞いてみたかった。

報告 2　梅崎　亮

2019 年 9 月 9 日から 12 日までの 4 日間にわたって星雪館さんにお世話になりました。私自身、東北地方に行くことが初めてで、とても楽しみな気持ちで参加しました。秋田はとても緑が多く、空気が澄んでいて気持ちが良かったです。宿泊した星雪館さんは山の中にあり車通りも少なかったため自然をたくさん感じることができました。私は静かに生活することが好きなので、とてもいい生活をすることができました。心を癒すにはぴったりの場所だと思いました。星雪館の方も仕事に疲れたサラリーマンの人に週末秋田に来て体を癒してほしいという想いを持っていました。

星雪館さんでは様々な新しい体験をさせていただきました。2 日目には農作業のお手伝いをし、病気にかかってしまった春菊を処分するという作業をしました。まず、春菊を全員で抜く作業から始まり、半分を過ぎたところで、抜く班と抜いた春菊を畑の端っこまで運ぶ班に分かれて作業しました。ビニールハウス 1 棟だけでしたが、7 人で作業して 2 時間かかりました。普段ならこの作業を 1 人もしくは 2 人でやっているのを考えると、農家の仕事は非常に体力が必要で大変な仕事だということを身をもって感じることができた。その後、少量ではあるが薪割りも体験させていただきました。薪割りも初めての体験で、最初は割ることができなかったのですが、的確なアドバイスのおかげで割ることができました。午後からは乳頭温泉に行きました。硫黄成分を含んだ白い源泉も初めて入り、少しにおいがきつかったのですが、リラックスすることができました。乳頭温泉も山奥にあり、どの季節に行っても山のきれいな景色を楽しめるのではないかと思いました。そのあとは日本で最も深い湖である田沢湖に行きました。田沢湖はとても広く海みたいでした。山々に囲まれており何か不思議なパワーを感じました。秋田合宿を通して、たくさん自然を感じることができ、自然の魅力を見つけることができました。

報告 3　塩見　陽奈

2019 年 9 月 9 日～12 日、ゼミ合宿が行われ、私は秋田県仙北市にある星雪館にお世話になった。そこでは薪割りや雑草取りなどの農作業のお手伝い、田沢湖や乳頭温泉などの名所の観光、いぶりがっこなどの秋田県の郷土料理が含まれたお食事など、その土地ならではの行事や自然に触れることが出来た。4 日間という短い期間であったが私の普段の生活では体験出来ない多くのことを知り、感じ、学ぶことが出来た合宿となった。

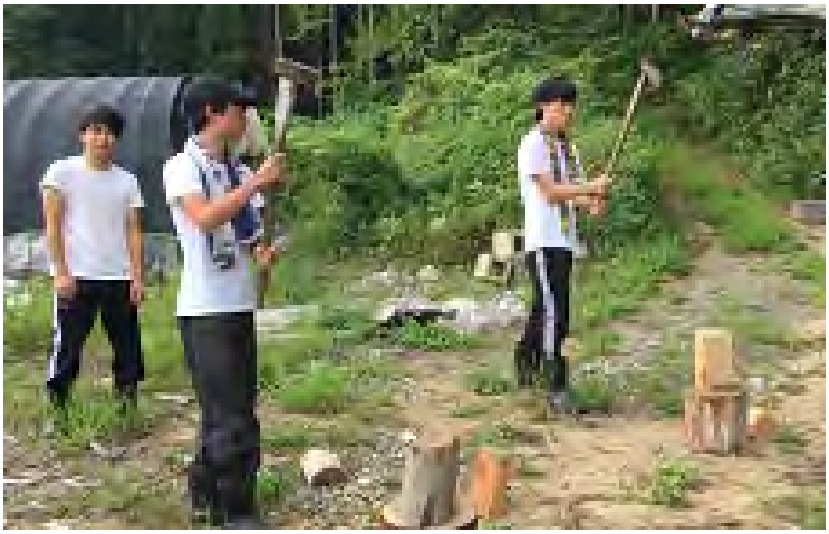
その中で印象に残ったことは 2 つある。1 つは農作業のお手伝いである。今回私達はビニールハウス内の片付けと薪割りを手伝わせてもらった。ビニールハウスの中には春菊が植えられていたのだが葉っぱの色が赤くなってて売り物にならなくなったため春菊を廃棄することになり、それに合わせて雑草取りも行った。この作業はゼミ生の 6 人と星雪館のじじとの 7 人で 1 つのビニールハウスを作業したのだがビニールハウス内の全ての春菊と雑草を取り除くのに 2 時間かかった。また、しゃがんだ状態で作業するので腰への負担も大きかった。薪割りも少しやらせて頂いたがゼミ生は薪割り初心者だったため実際に蒔を割れたのは半分の 3 人で私は割ることが出来ず難しさを痛感した。体験させてもらったのはこの 2 つだが、どちらも体力がいる作業で体に大きく負担がかかる作業だと改めて実感し、農業にとって人手不足は深刻な問題であり、様々な形で良さを広めていく必要があると考えるきっかけとなった。2 つ目は星雪館の方々のおもてなしの精神である。私達は合宿という名目で星雪館にお世話になったのだが、私達に快適に楽しく過ごしてもらおうというおもてなしの心が様々な場面で見ることが出来た。例えば 3 食の郷土料理も含まれた豪華なお食事や秋田県の名所案内、自由時間は宿全体をゼミ生の空間にして下さる配慮があった。また私達と話しやすいように普段の会話は方言ではなく標準語を使って下さった。私はこの場所で様々なことを学ぶだけでなく癒しの空間になった。

今回の合宿では普段の生活では体験できないようなこと、空間、自然、人の暖かさを感じることができ、充実した 4 日間だった。しかし、都市の過密化が進んでいる今、地域の良さを知らない人々は多い。体験した私達が SNS 等の力を借りて地域の活性化の手助けになるよう試みる必要があると考える。

報告 4　高田　理代

秋田合宿で最も印象に残っていることは春菊の採取である。これは葉っぱが赤くなっていて売り物にならないから、という植え替えをするための作業だった。ただ春菊を採取するだけだからそんなにしんどくは無いだろうと思っていたが予想以上にしんどかった。9 月上旬だからといって涼しくはなくむしろ暑かったのでさらにしんどさが増した。作業の指揮をしてくださったジジはこのような炎天下の中苦しそうな顔、態度を見せずに黙々と作業をしていてさすがだと思った。何年もやってくるとこのような作業も別に大したことではないんだろうな～とひたすら感心した。途中でジジが休憩時間を与えてくださりスイカ、お茶、おやきをごちそうしてくださった。普段おやきを食べることなんか全くなかったので、というか初めて食べたのでその美味しさに食欲がどんどん増して手もどんどん進んだ。そして作業を再開しひたすら春菊を取りまくった。そのあとジジの提案で薪割りをしてみよう、ということで私たち 6 人の学生は薪割り体験を初めてした。まずジジが薪割りのお手本を見せてくださった。簡単に薪を割って見せたので私たちにでもすぐにできそうだと思ったが、これも予想をはるかに超えて難しかった。まず薪を割るための斧がとても重く、斧を振り上げるのも大変だった。ジジにコツを教えていただいてやってみると綺麗に割れなかったが、まあまあな出来になった。ジジのように薪を綺麗に割るにはやはり「慣れ」が必要なんだと痛感した。

今回の合宿は初めてなことが多かった。東北地方に訪れるのも初めて、秋田の農家で泊まって農作業をするのも初めて。このゼミに入っていなかったらこんな貴重な経験をできなかっただろうな～とかたまに自然豊かなところで過ごすのもありだな～と改めて思った。みんなでバーベキューや観光をしたこともとても思い出深いし全体を通してとても楽しかったし、よりみんなと仲良くなれた気がする。



報告 5　俣木　友朗

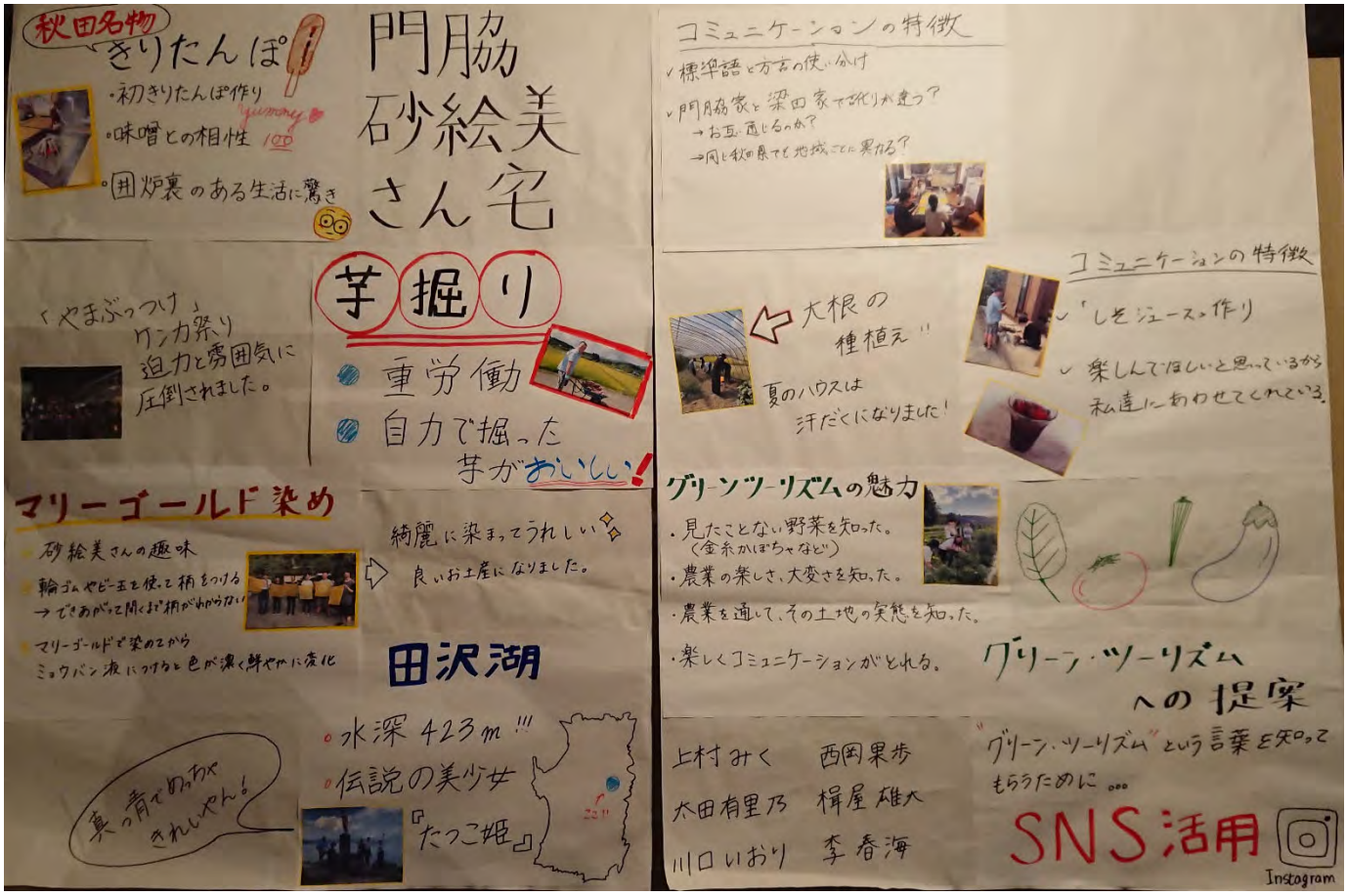
合宿に行く前は、今回東北地方に行くのは初めてであったし、どんな合宿になるだろうという期待や不安があった。1 日目は着いたばかりで疲れているだろうという配慮をして下さり、休憩時間を設けていただいた。その中で家の周辺を散歩したりトランプをしたりしてグループ内の親睦を深めることができた。

2 日目には農業体験をさせていただいた。その中で春菊を抜く作業をした。はじめはなぜ春菊を抜いてしまうのだろう、もったいないなと思っていたが、赤い斑点ができていると売り物にならないからだ、という理由を説明していただいた。手塩にかけて育ててきた食物達が売り物にならなくなってしまったとき、その労力や損害などを考えると、いたたまれない気持ちになった。農作業をするということは、そういったリスクも背負わなければならないということを痛感した。また、この作業に 6 人で合計 2 時間もかかった。6 人でこれだけかかっているのであれば 1 人ではどれほどの時間がかかるのだろうということを想像し、農業の大変さを思い知った。その他に、薪割りの体験もさせていただいた。じいじにお手本を見せていただいたが、いとも簡単に割られていた。さぞかし簡単なのだろうと思っていたら、斧が薪に刺さるだけでまったく割ることができなかった。僕は最後まで割ることができず見るのとやってみるのでは違うものだな、と思った。

3 日目はグループで発表を行った。自分とは別のグループはどんな活動をしていたのかということを聞けて面白かった。そこで他のグループは沢山喋ったということ知った。僕達のグループはあまり喋らなかった。富士美さんは、あまり私が会話に加わることはなく、来ていただいた人の中で会話をしてほしいという思いを語られていた。そして、自身があまり多くしゃべるタイプの人ではないということもおっしゃられていて、それぞれのグループで色があることがわかった。後から聞いた話によると先生もそういったことに配慮してグループ分けして下さったそうだ。

今回の合宿でグリーンツーリズムを体験し思ったことは、ぜひ、都会に住んでいる人に体験してもらいたいということだ。普段仕事で疲れ切っているサラリーマンにも自然の中での癒しを感じてもらい、リラックスしながら日頃のストレスを発散してもらいたいと思う。

門脇砂絵美邸


秋田名物
きりたんぽ
・初きりたんぽ作り
・味噌との相性 100
・囲炉裏のある生活に驚き
門脇
砂絵美
さん宅
コミュニケーションの特徴
✓標準語と方言の使い分け
✓門脇家と梁田家で旅行が違う?
→お互い通じるのか?
→同じ秋の県でも地域ごとに異なる?
「やまぶっつけ」
ワンカ祭り
迫力と雰囲気に
圧倒されました。
芋掘り
重労働
自力で掘った
芋がおいしい!
大根の
種植え!!
夏のハウスは
汗だくになりました!
コミュニケーションの特徴
✓「しそジュース」作り
✓楽しんでほしいと思っているから
私達にあわせてくれている。
マリーゴールド染め
・砂絵美さんの趣味
・輪ゴムやビー玉を使って柄をつける
→できあがって開くまで柄がわからない
・マリーゴールドで染めてから
ミョウバン液につけると色が濃く鮮やかに変化
綺麗に染まってうれしい
良いお土産になりました。
グリーンツーリズムの魅力
・見たことない野菜を知った。
(金糸かぼちゃなど)
・農業の楽しさ、大変さを知った。
・農業を通して、その土地の実態を知った。
・楽しくコミュニケーションがとれる。
田沢湖
・水深 423m!!!
・伝説の美少女
『たつこ姫』
真っ青で明るく
きれいやん!
グリーン・ツーリズム
への提案
上村みく 西岡果歩
太田有里乃 榊屋雄大
川口いおり 李春海
"グリーン・ツーリズム"という言葉を知って
もらうために…
SNS活用
Instagram

報告 1　上村　みく

2019 年 9 月 9 日から 12 日までゼミ活動の一環で、秋田県仙北市でグリーンツーリズムを経験した。私がお世話なった門脇砂絵美さんのお宅では私を含め 6 人のゼミ生が期間中お邪魔させていただいた。短い期間ではあったがこの秋田合宿に参加して、私は秋田の伝統や文化の良さを改めて感じることができた。私はこの経験を通して特に印象に残ったことが 2 つある。

一つ目は『秋田の文化』についてである。私は九州出身で、東北地方を訪れたのは高校の修学旅行以来二回目であった。修学旅行では福島へ行き、旅館へ宿泊したため普段の暮らしを見ることはできなかったが、この合宿では農業体験をはじめ、丁度行われていた祭りにも参加することができた。自然豊かな環境で、野菜を収穫したり種を植えたりしたことで懐かしい気持ちになった。また収穫した野菜を使って作ってくださった料理はどれも絶品であった。特に秋田の郷土料理の一つであるきりたんぽは、美味しいお米と囲炉裏を使用して、砂絵美さんに教えてもらいながら自分たちで作ったため、美味しくて 2 本も食べてしまった。また、「角館祭りのやま行事」はユネスコ無形文化遺産にも登録されており、私は行くまでこの祭りについて知らなかったが、曳山と呼ばれる大きなお神輿のようなものを町中で見ることができ、今日形骸化されたお祭りが多い中、伝統を守り、このお祭りにかける町民の皆さんの想いを近くで感じることができた。これから後継者・若者不足が心配されているようであったため、このような素敵な文化をいつまでも継承してほしいと思う。

印象に残っていることの二つ目は、ホストの砂絵美さんをはじめ家族の皆さんの『温かさ・フレンドリーさ』である。私たちを楽しませようと、きりたんぽづくりや田沢湖へ連れて行ってくださるなどたくさん秋田について教えてくださった。また、秋田弁についても教えてくださって方言ならではの温かみであったりテンポはとても心地よいものであった。何気ない会話からも皆さんの温かさをとても感じることができた。「都会の忙しい空間で疲れた人がここに来てリフレッシュして、また頑張ろうって思えるような場所にしたい。」とおっしゃっていたが、その意味を実感できた 4 日間であった。ちょうどいい距離間で私たちをもてなしてくださって、また行きたいという気持ちになった。砂絵美さん宅では、これまでさまざまな国や地域からの人を受け入れていらっしゃるそうで、お宅にはたくさんのアルバムがあった。写真に写っている人や活動について話してくださる姿はまるで本当の家族について語っているようで、優しさで包まれていた。私はそのような一因になれたようでとてもうれしかった。また来年度も機会があればこの合宿に参加し、「ただいま」と伝えられたらいいなと思った。

報告 2　太田　有里乃

2019 年 9 月、秋田県仙北市にある西木町で行われた 3 泊 4 日のゼミ合宿に参加した。私は同じゼミ生 5 人と共に門脇砂絵美さんのお宅にお世話になった。砂絵美さんはグリーンツーリズムという言葉の意味もよく分かっていなかったような私たちにも親切に活動内容について教えて下さり、秋田の郷土料理であるきりたんぽ鍋作りや農作業を手伝わせて頂いたり、喧嘩祭りや田沢湖に連れて行って頂いたり、と様々な体験を通して私たちは秋田の文化に触れることができた。3 泊 4 日という短い時間ではあったが、これらの活動を経て秋田の文化や環境の素晴らしさを知ることができたと思う。

この合宿全体を通して印象に残ったことは、地元の方々との交流である。ホストとして迎え入れて下さった砂絵美さんをはじめ、砂絵美さんのご両親や旦那さん、息子さんなど角館で生活されている方々と少しではあったがお話しさせて頂いたり一緒にご飯を頂いたりする時間が私にとってはとても貴重で大切な時間であった。砂絵美さんは私たちに対して標準語で話しかけて下さっていたが、ご家族や近所の方とお話しされる際に出る秋田の方言が新鮮で、地元の雰囲気を感じられたのが嬉しく印象的であった。秋田弁も教えていただき、普段自分が使っている大阪弁との違いを面白く感じた。砂絵美さんのご家族も地元の皆さんもとても気さくに話しかけて下さったのであまり緊張せずにお話をすることができたし、食卓を囲んだときは自分の家族とご飯を食べるときよりも凄く賑やかで楽しく、美味しい料理が更に美味しく感じられて幸せなひとときであった。

きりたんぽ鍋作りはもちろんのこと、農作業をする機会も普段は滅多にないため、自分の日常とはまた違った日常を体験することができたことがとても嬉しく感じられた。のどかな町でゆっくりと流れる時間を過ごすことは、都会で忙しく過ごす社会人の人たちにとっても憩いになると感じる。しかし、グリーンツーリズムという言葉やその意味は、この合宿に参加する前の私のように知らない人もまだ多くいると思うし、このような活動をされていること自体知名度は高くないと感じる。多くの人が知るようになり、利用者も増えれば地域の活性化にも繋がると思うが、砂絵美さんたちも SNS を利用した情報の拡散の工夫が難しいとおっしゃっていたため、参加した私たちにも何かできることはないか、考えたいと思う。

報告３　楫屋　雄大

秋田合宿では、今まで体験したことのない数々の出来事があった。様々な農作業を行ったが、どれも重労働であった。特にサツマイモ堀りでは、あまり普段使わない筋肉を使ったため次の日筋肉痛になった。毎日、このような作業をしていらっしゃる農家の方々に敬服した。数日間住ませて頂いた家には冷房がなく、農家の方のお話によると基本的にこの地方の家には基本的に冷房がないそうで、同じ日本でも風土によって住環境に違いが生まれることに驚いた。また、農家の方同士で話していると、方言でどのようなコミュニケーションを行っているのか全く分からず、言語の違いに驚いた。

また、農家の方々には親切にしていただいて、地方の料理であるきりたんぽやその他いろいろな料理を振舞っていただいた。どれもおいしく、また食べたいと思った。

秋田県の風土に触れ、文化に触れ、それを実体験として経験できたこの合宿は、自分にとって有意義な時間となった。

報告４　川口　いおり

今回の秋田合宿で人生初めてのグリーンツーリズムを体験しました。今回は門脇砂絵美さんのお宅にお世話になりました。グリーンツーリズムとは農村に滞在し余暇を過ごすことを指します。門脇さんやそのご近所さんが持つ畑で、種植えや収穫などの農作業を手伝いました。秋田の農作業で一番印象に残っているのは芋掘りです。さつまいもを掘る手伝いをしたのですが、芋は１つ１つが大きく数も多かったため、手作業で掘るのはなかなか重労働でした。私は実家が花卉農家なので、ある程度農業の過酷さは知っているのですが、野菜を扱ったことはあまりなかったので新鮮さがありました。また、農業の若者離れが問題で衰退していくといった農家ならではの問題も空いた時間に話してくださったので、同じく農家出身として良い経験となりました。ご近所さんの畑は広く、他にも多種の野菜を植えており、それらも収穫して持ち帰り、門脇さん宅で料理をして振舞ってくれました。秋田ならではの金糸瓜なども食べさせてくれました。きりたんぽの作り方を門脇さんの祖父に教えてもらい一緒に作りました。また、門脇さん宅で採れたしそを使ってしそジュースも作りました。門脇さんの趣味であるマリーゴールドの染め物も教えてくださり、門脇さん宅に滞在しないとできないような貴重な体験もさせてくれました。近くの田沢湖とやまぶつけという祭りにも車で乗せて行ってもらったりと、秋田の文化に沢山触れることもできました。門脇さんとそのご家族さんはとても親切にしてくださり、私たちがリラックスできるように努めてくださったのでとても快適に過ごすことができました。人生初のグリーンツーリズムでしたが、私自身とても楽しい思い出ができました。農業に興味がある人のほかにも、休暇で適度に体を動かし適度に休みたい人や秋田の文化に興味がある人にはお勧めだと思います。

報告５　西岡　果歩

秋田合宿で印象に残っていることは、２つある。１つ目は、秋田県の文化に触れたことである。その中でも、農業・食事・言葉の３つに絞られる。この３つは、農家さんとコミュニケーションをとるうえで関連している。農業ではサツマイモの収穫がとても印象的であった。私がイメージしていたサツマイモの収穫は、とても簡単で、幼稚園の子でもできてしまうようなものであると思っていた。例えば、つるをもって軽々引っ抜くような感じ。実際にやってみると、体制が中腰であるので、長時間続けるのはとても重労働であると感じた。おばあちゃんおじいちゃんが毎日のようにしなければならない仕事と考えると、しんどいしつらいものであるなと感じた。食事は、新鮮な野菜をつかっておいしい料理を出していただいた。伝統的な料理のきりたんぽを手作りして食べたものはとても印象に残っている。食事のときや農業をしているときに、方言に触れた。普段関西弁に触れているが、地域の異なった言葉を聞くのはとても面白いものであった。私は方言のことについて、お互いの意見交流もできたので良い経験になったと考えている。例えば、秋田の方言ではこうで、関西弁ではこうで。といったようにお互いに知らないことに触れることができるのもいい経験になったなと考えている。

２つ目は、友達とのコミュニケーションを高めることができたことである。この秋田合宿に行く前も、仲が悪かったわけではないが行ったあとと比べるとあまり心が開けていなかったのかなと感じるぐらいだ。一人ひとりの性格を確認することができた。例えば、農家さんとのコミュニケーションととるのは苦手だけど、考え方はしっかりしているので最後のポスターを作るときに意見をいっぱい出してくれた。自分ができないことが友達のできる事だったりしたときは、協力して良かったなと感じた。

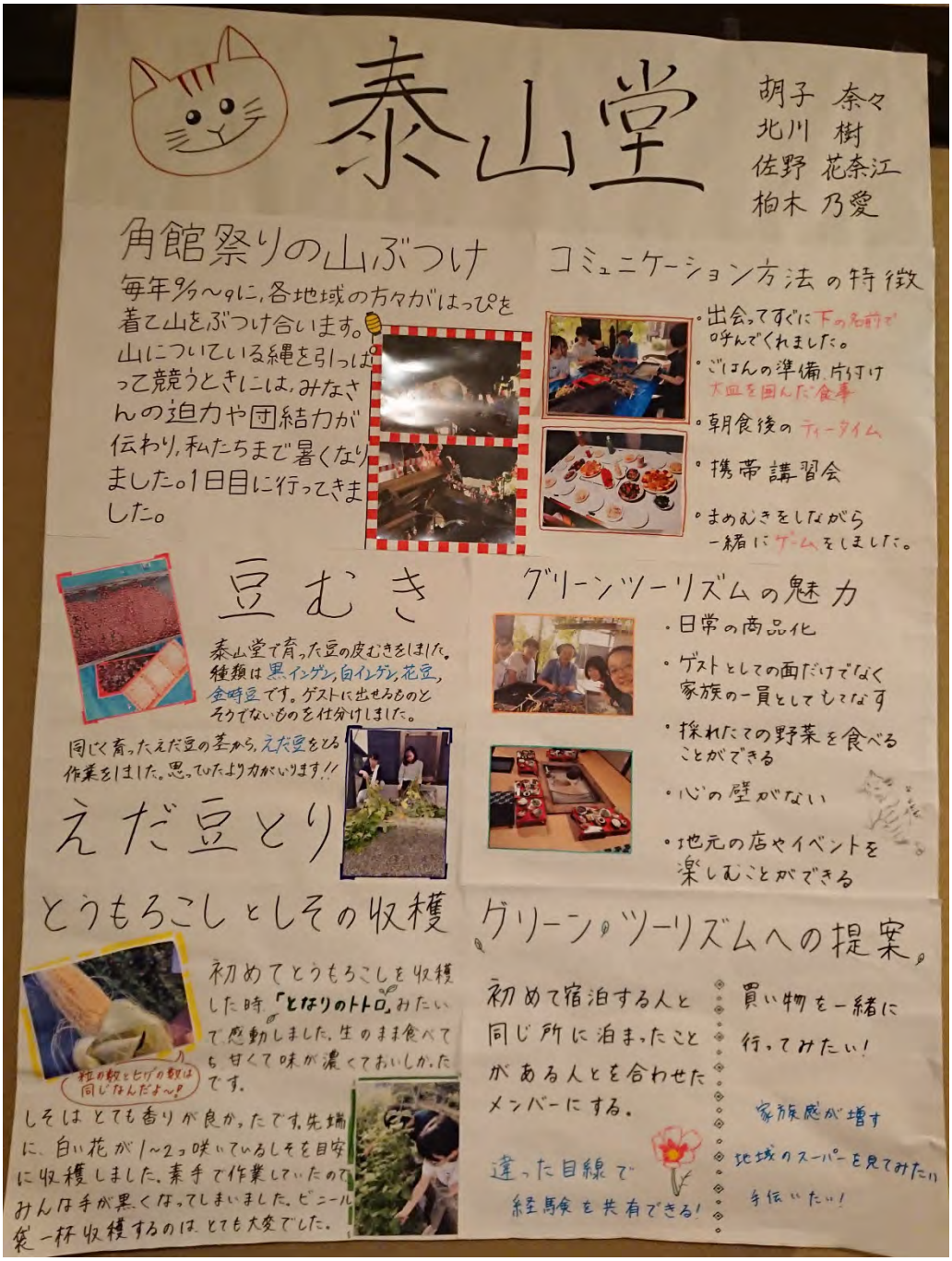
私の中で、秋田合宿は大きな経験をできた楽しかった思い出である。東北地方に行ったのも初めてで旅行気分であった。ゼミの後輩にもぜひ行ってほしいと思う。

報告６　李　春海

秋田合宿の体験を一言で例えると「新鮮」である。秋田合宿を機に、私は初めて秋田に行くことができたし、日本に来て５年間、秋田というところは私にとって、到達した日本の最北部の都市である。秋の秋田は夏の余熱が少し残っているだが、走る車の中から眺め、道路の両側に広がる金色のイネや、町内に咲く紅葉などの景色は「今年の秋も良い収穫の季節だ」のように言う。

幼い頃から、私はずっと中国の広東省で生活していた。農村生活や都会を離れたことはなかったため、田舎生活をイメージすることは難しい、農作業はどういう作業がわからなかった。秋合宿の三泊四日の中、ゼミのみんなと一緒に野菜取り、角館祭りの山行事、芋掘り、ジュース作り、染物作りなど、多くのこれまでのない楽しい出来事ができた。野菜取りや芋掘りのような農作業を通じて、最初は「農作業は重労働だ！」という農作業の大変さを感じて、その後、野菜の一つ一つはどうやって収穫することや、収穫する野菜の様子を知り、調理する際と食べる際に、心の中に残っている最初の「農作業は重労働だ！」という感覚を、農作業をやって良かったと思うようになるという思想の変換は、農作業をやらないとわからないことである、農作業することで、私は労働の価値がわかるようになった。ジュース作りや染物作りは自分の手で作り出すもの、最初はジュースの味は知らないだが、作った後は意外の味をして、美味しいと思った。染物作りは初めてやったことのため、最初から期待感が高く、布に綺麗な柄を付けることは難しいと思ったが、出来上がった作品を見て、布に付けた柄は対称図形のようになっている、とっても綺麗にできたと思った。農作業の野菜取りや芋掘りと、手つくりのジュース作りや染物作りなどのことは私が経験したことのない活動である。今回の合宿に参加しなければ、農作業の楽しさや手つくりの面白さは分からなかっただろう、だから、私にとって、秋田合宿の感想を表現すれば「新鮮」である。

泰山堂


泰山堂
胡子 奈々
北川 樹
佐野 花奈江
柏木 乃愛
角館祭りの山ぶつけ
毎年9/7〜9に、各地域の方々がはっぴを着て山をぶつけ合います。山についている縄を引っぱって競うときには、みなさんの迫力や団結力が伝わり、私たちまで暑くなりました。1日目に行ってきました。
コミュニケーション方法の特徴
・出会ってすぐに下の名前で呼んでくれました。
・ごはんの準備、片付け大皿を囲んだ食事
・朝食後のティータイム
・携帯講習会
・まめむきをしながら一緒にゲームをしました。
豆むき
泰山堂で育った豆の皮むきをしました。種類は黒インゲン、白インゲン、花豆、金時豆です。ゲストに出せるものとそうでないものを仕分けしました。
同じく育ったえだ豆の差から、えだ豆をとる作業をしました。思っていたより力がいります!!
えだ豆とり
グリーンツーリズムの魅力
・日常の商品化
・ゲストとしての面だけでなく家族の一員としてもてなす
・採れたての野菜を食べることができる
・心の壁がない
・地元の店やイベントを楽しむことができる
とうもろこしとしその収穫
初めてとうもろこしを収穫した時「となりのトトロ」みたいで感動しました。生のまま食べても甘くて味が濃くておいしかったです。
粒の数とヒゲの数は同じなんだよ〜!
しそはとても香りが良かったです。先端に、白い花が1〜2つ咲いているしそを目安に収穫しました。素手で作業していたのでみんな手が黒くなってしまいました。ビニール袋一杯収穫するのはとても大変でした。
グリーンツーリズムへの提案
初めて宿泊する人と同じ所に泊まったことがある人とを合わせたメンバーにする。
違った目線で経験を共有できる!
買い物を一緒に行ってみたい!
家族感が増す
地域のスーパーを見てみたい
手伝いたい!

報告＆おわりに　牲川　波都季

今回，泰山堂には 4 年生が 4 名が宿泊した。4 名とも，昨年度も秋田でのフィールドワーク調査に参加した者でリピーターである。佐野さんと北川さんは昨年度に続き 2 回目の泰山堂，柏木さんと胡子さんは昨年度星雪館，今年泰山堂での滞在となった。

本来はこの 4 名が報告書を書くべきだが，4 年生ということで卒業論文の執筆時期と重なり，現地での発表をもって報告の代わりとした。

ここでは代表教員の私から，泰山堂と 4 年生の滞在を簡単に紹介するとともに，今回のフィールドワーク全体の総括もしておきたい。

泰山堂のグリーン・ツーリズムの開始は，劇団わらび座からの依頼を受けて，中学生の農業体験の受け入れたことがきっかけである。こうして 1980 年前後から，都市部の子ども中心に受け入れを続けたのち，自宅の敷地内に離れ（現在の泰山堂）を建て，1996 年には秋田県内で初めて農家民宿を開業した。泰山堂を営む藤井けい子さんは，グリーン・ツーリズムに関する地域の研究会も立ち上げ，長くその会長を務めていた。また，秋田県内のグリーン・ツーリズム運営農家が参加する NPO 法人の役職にも就いており，男女共同参画に関する秋田県および内閣府の賞を受賞するなど，秋田県の特に女性によるグリーン・ツーリズム運営を先導する立場を担ってきたと言える。夫である直市さんは，農業のほか職人としての仕事も長く続けられており，泰山堂も建築した。また，受け入れ時にもけい子さんの活動を積極的に援助している。

この泰山堂には 2 名が初めて滞在したが，報告会では，けい子さんが，滞在開始時から大変親しく語り掛けてくれ，まるで長く知り合いであるかのような気持ちがしたという感想が聞かれた。私自身は研究活動では，西木町のグリーン・ツーリズム農家になぜこうした受け入れが可能なのかを，各農家の他者に対する価値意識から理解したいと考えてきた。これまで私が行ったインタビューを分析すると，けい子さんの場合，人生全体に対する強い満足感・幸福感

があり，その一つの要素として，グリーン・ツーリズムによる他者との出会いが位置づけられているのではないかという印象をもっている。けい子さんの生活は，日々の畑での農作業，自宅で取れた農作物を使っての料理，近所にいる親しい友人たちとの語らい，グリーン・ツーリズムに関する地域外での活動など，さまざまな幸福感を与える要素で満ちている。そこにさらに幸福感を加えてくれるものが，泰山堂を訪れる他者の存在である。

そのため，けい子さんにとっては，他者がどんな人か（どんな属性をもつのか）は大きな意味をもたない。訪問客は，普段とは違う楽しみをもたらす人々であり，国籍，職業や職位，滞在回数に関わらず，均並みに親しみたい他者なのである。見知らぬ他者だからこそ親しみたい，親しみたいからそのように接する。この受け入れの在り方が，客にとってみれば，解放感と安心感の源になっているのではないか。まったく知らない場所・人との出会いという意味では，日常とは異なる環境で解放感が得られるが，同時に，以前からずっと親しかったかのような，けい子さんの日常にそのまま入り込んだような関わりを，泰山堂では感じることができる。けい子さん自身が，日々の生活と人生に深い幸福感を抱いているために，その幸福感の中に一緒に抱かれるような安心感がある。

西木町のグリーン・ツーリズム運営農家は，他者の受け入れに対してはそれぞれ異なる価値意識をもっているが，生活・人生に対する幸福感という点では共通しているように思う。グリーン・ツーリズム以外に農業収入という経済的な基盤があり，受け入れを支えてくれる多世代同居家族，運営農家同士の強い信頼関係もある。このような安定した生活の基礎があった上で，まったくの見知らぬ他者を自宅に招くという活動が，生活にさらなる幸福をもたらす楽しみとして維持されてきたのではないか。その点では，今回の参加学生の報告でも触れられているように，農業自体の後継者不足という問題は大きい。農業の効率化・大規模化を進める政策が，農家が農業のみで暮らしを立てることを難しくしているということもある。今後当地でのグリーン・ツーリズムは，「6 次産業化」の流れもあって，重要な収入源の一つとなっていくのかもしれない。そうしたときに現在の価値意識とそれに基づく受け入れの在り方は維持されていくのだろうか。

私の本来の専門は，日本語教育学なのだが，それに関連して，今は外国人受け入れを支える価値意識についても関心をもっている。この関心から，滞在する人みなを居心地よくさせる，西木町のグリーン・ツーリズム運営農家に着目してきた。ゼミでの秋田への訪問も今回で 4 回目となったのだが，自分の関心がことばの教育というもともとの専門からどんどん離れてきており，ゼミ生に意義を説明することが難しいとも感じている。しかし今回リピーターとして参加した 4 名からは，こうした機会でなければ得がたい貴重な経験で，ぜひ続けてほしい，自分達も個人的に再訪したいと考えているとコメントをもらった。私の教育実践のポリシーの一つは，数年後，数十年後に思い出した時に，あの授業よかったとふとよぎるというものである。終わってすぐには気づかずとも，いつかまた思い出し，訪れたくなる。秋田県仙北市西木町と農家のみなさんにはそんな引力がある。

****

2019 年度　関西学院大学総合政策学部研究会学生地域貢献等活動助成事業

秋田県仙北市西木町地域のグリーン・ツーリズム運営持続のための提案

報告書

発行日	2020 年 3 月 31 日
発 行	関西学院大学総合政策学部　牲川波都季
	669-1337 兵庫県三田市学園 2-1
編著者	関西学院大学総合政策学部　研究演習 I・II
問合わせ先	牲川 波都季　segawa@kwansei.ac.jp

****